



# 地球

2013年 冬号

男女が共に生きる情報紙 VOL.95

フォーラム特集

2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業 共に生きるフォーラムふじさわ2012

## 男のチカラを活かそう!

～ 地域 の出会い 知り合い 助け合い～



もくじ

- 「男のチカラを活かそう! ～地域の出会い 知り合い 助け合い～」講演を聴いて
- 「おやじの腕まくり」を読んで
- 地域の出会い～辻堂発 楽しい仲間に出会えたのが大きな収穫です
- 編集後記
- インフォメーション

# 男のチカラを活かそう!

～地域の出会い 知り合い 助け合い～



## ● 講師:元NHKエグゼクティブアナウンサー 村上 信夫(むらかみ のぶお)氏

- ▶ 2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「顔」として活躍。
- この4月からは、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送『日曜はがんばらない』（毎週日曜 10:00～）、月刊『清流』連載対談～ときめきトークなど、新たな境地を開いている。
- イ 1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。
- ↓ これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。
- ル 著書に『ラジオが好き!』（海竜社）、『ことばのビタミン』（近代文芸社）、『いのちの対話（共著）』（集英社）など。



2012年11月3日、2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業「共に生きるフォーラムふじさわ2012」講演会が、藤沢市役所で開催されました。講師は、元NHKエグゼクティブアナウンサーの村上 信夫さん。

村上さんは「行動力」の人、お話をうかがってそんな印象を強く受けました。自分の心に芽生えた「地域に友達がほしい」という思いをきっかけとしてすぐに行動に移す、まさに「思い立ったが吉日」です。また、アナウンサーとして長年ご活躍された方ならではの、言葉が持つ力についても熱く語っていただきました。

そこで、村上さんのお話の一部と講演会の感想をまとめてみました。



## 村上 信夫氏の講演から

### おやじの腕まくりについて

17、8年前、37、8歳の時、名古屋から転勤してきて、横浜に住むようになりました。そのとき地域に友達が一人もいないことに気がつきました。子供は小学生だし、カミさんには友達がいます。自分にも友達がほしいということから、おやじの出番を作ろうと思うようになりました。近くの地区センターに相談に行くと、担当職員から「待ってました」と男性の利用を歓迎されました。

かつて祭りの立役者は、男だった。男たちの中には、カミナリおやじもいて子供たちを叱ってくれました。けれど、そんな男たちを、バブル社会が全部会社に連れて行ってしまった。それならば、そういう男たちを地域に連れ戻そうと思い、準備講座「男の腕まくり」を開き、講座終了後にグループを立ち上げ、数十人が残りました。それから十五年余り、現在も活動は続いています。

### 次の世代に伝えたいこと

#### おはよう

朝「おはよう」と人に言っていますか。「おはよう」と言えば心の窓が開かれます。「おはよう」と言えば、人と人とのコミュニケーションが取れます。

#### いただきます

食事をするとき、大きな声で「いただきます」と言っていますか。

#### 岡山の天ぷら屋さんでの会話・・・

お母さんと子ども「いただきます。」  
横で聞いていたお父さんが「金を払っているのだから『いただきます』なんて言わなくていいよ。」

#### 熊本県の小学校では・・・

子どもの親から「給食費を払っているんだから、給食の時間に、子どもたちに『いただきます』と言わせないでください。」という電話が。

学校側「はい、わかりました。」と言ってしまった。

両方ともお金が関係していますね。でも、そういうことではありません。人間の命を繋ぐため、いただいている命のために「いただきます」と言っているのであり、言葉を口にして、音にしなないといけないのです。

そして、何かあったら「ありがとう」「大丈夫だよ」と言いましょ。 「ありがとう」「大丈夫だよ」という言葉も魔法の言葉です。このことを大人は伝えてほしいと思います。

(大山 記)





## 🍷 講演会を聴いて①

「男のチカラを活かそう!」。講演前、女であり、年齢もひとまわり以上先輩の村上さんのお話は、私には縁遠いテーマかな、と正直思っていた。

とはいえ、いつか迎える夫の定年のときに、シニア世代で地域活動にも熱心な父の参考になればいいかな、おまけに託児つきだし、とそんなノリで参加してみた。

村上さんは、アラフォー前の転職を機に、ご近所・地域に知り合いもできず、ひたすら会社と家庭の往復を繰り返し、このまま定年を迎えることになるのでは、とふと不安がよぎったそう。

私は結婚してから、夫の転職などで3回引っ越しをした。子どもがいなくて働いているときは、ご近所・地域に興味なし。仲良くなろうと思わなければ、そんなお付き合いは煩わしいとさえ考えていた。

結婚して実家を離れて、近所・地域って?と、初めて感じたのは長女を妊娠したときの母親学級だった。有休をとって参加すると、地元なのかすでに知り合い同士でちらほら、おしゃべりが弾んでいる。私は、アウェイ(よそ者)な気分、居心地が悪い感じだった。出産後、すぐ夫の転職で海外へ。仕事を辞め、乳飲み子抱

えて知り合いもない地での子育てがスタートした。ここでは、言葉の壁があっても、自分から地域参加していかなければ母子ともに

友達ができない。すでに幼稚園や学校に通っているならともかく、自分から外に出なければ、しゃべる相手さえもできない。転居を機に、ふと地域とのつながりがない寂しさや危機感に村上さんと同じ気持ちになった。気が合う、合わないは正直あるが、まず地域の人を知ってみるのが最初の一步。そうすれば、居心地のいい場所が家庭以外にも、もうひとつ増えるかもしれない。

また、村上さんのお話を聴きながら、男も女も、働いていても専業主婦でも考えること、不安になることは同じなのかなと感じた。村上さんが会社と家庭を往復しながら定年後の自分に、専業主婦の私は子どもが巣立ったあとのことを。

村上さんが、地域の父親グループを立ち上げたのは約18年前、今でも「おやじの腕まくり」は続いているそうで、継続の秘訣は、社長(=リーダー)がいないこと。興味のあるテーマごとに「お山の大将」が変わり、会社組織のような肩書も存在しない。

今では、藤沢市内でも「おやじの会」なるグループがいくつ

かある。当初は自分たちの楽しみにスタートしたものから、親子参加に、さらには自分の子どもだけでなく地域の子ともとかかわる活動にまで広がっている。村上さんは、このような「おやじ」の活動を「定年前の予習」とも表現されていた。「母親業」真っ只中の私も、楽しく歳を重ねるヒントをたくさんもらった90分だった。

(佐野 記)



「おやじの腕まくり」が活動し始めた頃、ケーブルテレビの取材を受けた時の様子

## 🍷 講演会を聴いて②

村上さんは現役時代から地域団体へ参加し、料理教室や老人ホーム体験など積極的に活動されてきた方。本紙の編集員として講演に参加する自分が、30代女性の視点でどのように講演を聞くと良いか考えましたが、始まるとすぐにその不安は消えました。村上さんの人柄と話術に魅了され、終了まであつという間でした。ファンの方々が村上さんを求めてはるばる藤沢までお越しいただいたのにも納得。私が用意していたノートは気づくと村上さんの言葉のエッセンスでいっぱいになっていました。

まず、地域に参画するのに肩書はいらない、という冒頭で始まりました。会社のように社長を決めず、それぞれの男性が個性を生かして活動に取り組んでいたそうです。ちなみに村上さんは広報担当。地域交流の場でビデオカメラを回し、気さくにインタビューをされていました。そんな明るい村上さんも仕事の都合で転職した当初は地域にどうすれば馴染めるか悩んだそうです。奥様がすぐに友人を作りサークル活動をする姿を見て羨ましかったそうです。そこで村上さんが思い立ったのは、地区のセンターへ出向き広報を



利用して自主グループへの参加者を募集すること。すると、多くの男性が集まったそうです。毎週土曜日に行われる定例会ではイベントの企画をたてたり、交流を通して自分の子どもだけでなく他人の子どもにも目をかける事ができるようになったそうです。印象的だったのは、村上さんが地域活動を始めたことでご夫婦の会話が増えたということ。共通の話題や互いの経験談を交わすことでより一層会話を楽しめるようになったんですね。

村上さんの子育て論は、①に教えやしつけ、②に溺愛、③③にライバルとしての存在が必要だということ。特に大事なのは①のトレーナーとしての存在。ある時電車内で騒ぐ高校生に対し、近くに乗車していた老人が『君たち、少し静かにしてくれるかな?』と注意をしたそうです。すると不思議と少し静かになったそうです。この老人は上から目線にならず“君たち”という言葉や“少し”という言葉を用いたこと

で高校生に伝わりました。これは公共の場でのケースですが、自分の子どもには時に全身全霊で叱ることも必要だと村上さんは言います。昔いたようなカミナリおやじやゲンコツおやじのように威厳も必要、物解りが良いだけのおやじではダメ、と。このようなお話も、村上さんの人柄と思いやりのある話し方で素直に私の心に届いてきました。嬉しい言葉の種まきをする村上さんはあまりに自然体で、言葉には力があることを教えて下さいました。私も含め会場にいた多くの方々の心にもきっと響いたと思います。

(岸田 記)

## 『おやじの腕まくり』を読んで

父親が10月はじめに亡くなった。仕事人間だった我が家のおやじは、娘が子供を産んだ時、初めて孫の子育てに参加した。本当に嬉しそうに、慣れない手つきでお風呂に入れてくれた。仕事人間のまま人生を駆け抜けてきた男の初めての子育ては、自分の孫の育児だった。隣で母が、私の時はこんなに手伝ってくれなかったのにと笑っていたのが昨日のことのようだ。

忙しさにまぎれ、ここのところ暫く本を読んでいなかった。久しぶりに読んだ本が『おやじの腕まくり』村上信夫著、考え方の座標軸がカタンと動いた。

そうだ、本に書いてあるように自分でも仕事を離れた名刺を作ってみようか。仕事を離れた自分に向き合うと…意外に自分がないことに気がつく。確かに仕事の肩書き以外の肩書きを自分で作るなんて考えたことがなかった…。仕事を離れると、〇〇ちゃんのお母さん。そしてルビーのお母さん。これは愛犬の名前。近所では、我が家の犬の名前より私の名前は知られていない。自分が付属物として存在していることにあらためて驚く。

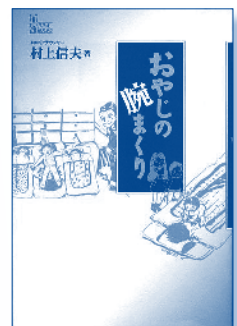
ツイッター依存症、文章書き、コーヒーマニア、みちくさ会のゆうれい部員、散歩と写真がすき。自分のことを文字で書くとともにその先の方向性が見えてくる。意外にも、地域との関わりが希薄であることに気がつく。子供が育ってしまうと地域力も落ちてしまうのだろうか。〇〇ちゃんのお母さんって言われても仕方がない。自分の顔を持って地域社会に入っていかなかったことを少し反省する。

人生の座標軸をほんの少し家庭や地域の方へずらしただけで、出会える人間がちがってくると本は教えてくれる。朝仕事に向かう電車を1本早くしただけで、混み具合も出会う人の顔も変わる。

視点が変われば、見える景色もガラッと変わる。立っているステージが変わると自分にできることが見えてくる。今からでも遅くない。自分の立ち位置を少しだけ家庭や地域、ご近所にずらしてみようか…。

(川辺 記)

おやじの腕まくり  
村上信夫 著  
2001年 JULA出版局





## 地域の出会い～辻堂発

# 楽しい仲間に出会えたのが 大きな収穫です

公民館まつり  
模擬店のラーメン



男性の料理教室「<sup>はまみかい</sup>浜味会」は、1995年の辻堂公民館の講座「メンズクッキング」を受講した人々14人が集まってサークルになりました。毎月、第3日曜日午前中から午後にかけて、講師の先生の指導のもと色々な料理にチャレンジしています。

毎年、辻堂公民館まつりの模擬店で販売されるラーメンは、美味しいと評判で、長い行列ができます。この度、「浜味会」の代表の元永さんにお話を伺いました。



公民館まつりの様子



公民館まつり模擬店の仕込みの様子。わいわいがやがやおしゃべりしながら作業するのがとても楽しいです。

**Q** 「浜味会」に参加したきっかけは何ですか

**A** その頃、仕事も以前ほどの忙しさはなくなり、気が付けば会社と自宅を行き来するだけで、地域に親しい人がほとんどいませんでした。そんな時、辻堂公民館でメンズクッキングの講座を知り受講しました。その後「浜味会」としてサークルになり、メンバーに加わりました。

**Q** 「浜味会」はどんな様子ですか

インタビュー風景

**A** 現在は50代から80代までの20名のメンバーがいます。月1回のサークルを楽しみにしていて余程の用事がある以外、みんな出席していますね。4つの調理台ごとに出来上がった料理を味見すると、けっこう美味しく出来ていますよ。年齢差があるといえませんが気になりません。花見や旅行や飲み会などもしますが、集まりがいいですね。このサークルに入り、楽しい仲間に出会えたのが大きな収穫でした。



**Q** 習った料理を自宅で作ることはありますか

**A** 孫に振舞って喜ばれ、妻が臥せった時など億劫にならずに台所に立つ事ができるようになりました。

**Q** 長く続いているサークルですが、仲良くなるコツはありますか

**A** お互いに鎧を着けず、自然体でいることです。それから一緒に何かするという事がとても大事だと思います。

**Q** 公民館まつりの「浜味会」のラーメンの他に取って置きのお話はありますか

**A** 公民館の方の協力もあって2010年開催の湘南藤沢グル麺コンテストに「波乗りラーメン」と銘打ったラーメンで出場しました。優勝はできなかったものの、このラーメンには物凄く長い列ができ「最後尾」の看板を持つ人が立ったほどで、真先に完売となりました。



湘南はサーフィンのメッカ。チャーシューをサーフボードに、鉢巻きタコをサーファーに見立てました。

**Q** 男女共同参画についてどう思われますか

**A** 男性、女性それぞれやれることをやればよいと思っています。家事については、妻の方がずっとキャリアがありますから、ゴミ処理とか洗濯物をたたむとか、私ができる事をやっています。

元永さん、とても和やかに自然体でお話していただきました。また、浜味会のメンバーには調理師の免許を取った方もいらっしゃるそうです。人それぞれリタイア後の過ごし方があると思いますが、地域に気心が知れた仲間がいるのは、それだけで幸せなことなのかもしれません。

(遠藤 記)

編集後記

- 2013年が明るく充実した年になりますように～あら、年賀状みたいですね。(遠藤)
- 雑事に埋もれては、大局は見えない。カメラを片手に街へ出てみたら、凍る季節の景色の中に不思議と何かが見えてきた。(川辺)
- 言葉が持つパワーをマイナスではなくプラスに活かしていきたいと思いました。2013年は早速実行してみます(^-^)(岸田)
- 今年も取材を通して素敵な「ふじさわ人」に会えたらいいなあと願っています。(佐野)
- ハス池に行ったらカワセミがやって来た。カメラのシャッター音が響く。小春日のひとつときでした。(大山)

# インフォメーション



イラスト協力：(株)ワキプリントピア

藤沢市には、多くの人々が、暮らすとともに、さまざまな形で働いています。

「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活の調和)の実現が求められる中で、これまでも、労働団体、経済団体・企業、NPO、行政等がそれぞれの立場で取り組みを行っています。

しかしながら、経済情勢や生活環境が仕事と生活の調和に与える影響はとても大きいものがあり、こうした団体が連携・協働して取り組むことがより一層求められています。働くことの意味は人それぞれ、個性いろいろ、どれもよい、悪いということではありません。一人ひとりが、お互いの多様性を理解し尊重することも大切です。

ここ藤沢には、豊かな自然があり、郷土愛あふれる人々がいます。

最近では、「このまちで働きたい! このまちで暮らしたい!」という人々の熱い視線を集める「職住接近」の先進モデルとして、新しいまちの価値が創出されようとしています。

みんなが安心して働けること、働く人々が家庭や地域によりよい形で参加できるようになること、そして健康で豊かな暮らしを営むための時間がとれるようになること—こうしたことの実現に向け、労働団体、経済団体・企業、NPO、行政等がそれぞれの責務を果たすだけでなく、一人ひとりが、仕事・家庭・地域という3つのバランスのとれた、充実した生き方を目指すことが、地域コミュニティの活性化にもつながります。

「いい環境が、いい働き方、いい生き方につながっていく」

ここに、課題を共有し、藤沢で働くこと、生活することの価値を高め、「いいき働ける藤沢」のまちづくりを共に進めることを宣言します。

2012年11月 ふじさわワーク・ライフ・バランス推進会議

## 勤労市民課からの お知らせ

申し込み・問い合わせ先

藤沢しごと相談システム運営センター(労働会館内)  
TEL.23-8222 FAX.23-8277(月~土曜日(祝日除く) 9:00~17:00)

申し込み

随時受付(定員になり次第締め切り)。電話または来所で、  
上記「藤沢しごと相談システム運営センター」へ。

### 就職支援個別カウンセリング

場所：藤沢市労働会館(藤沢市本町1-12-17)

■内 容：就職に向けた相談に個別アドバイスします。

■日 時：毎週水曜日、土曜日 9:30~16:00  
(祝日・祝日翌日は除く) 1人1時間以内

■対 象：市内に在住または在勤・在学の転職・就職を希望する方【各日5名以内】

### 就職支援セミナー「女性の再就職」

場所：藤沢市労働会館(藤沢市本町1-12-17)

■内 容：①オリエンテーション ②女性にとってのワークライフバランス  
③女性を取り巻く労働市場 ④求職活動のための準備  
⑤自己分析・自己理解 ⑥応募書類の書き方・面接対策 ⑦まとめ

■日 時：1月24日(木) 9:30~12:30

■対 象：市内に在住または在勤・在学の転職・就職を希望する女性【20名】

かがやけ地球は、市民の編集員さんの企画・運営によって年4回発行しています。編集スタッフ 遠藤 倫子・川辺 裕子・岸田 弥生・佐野 美穂子・大山 賢一

藤沢・茅ヶ崎・寒川「湘南」がエリアのFM放送局



<http://www.radioshonan.co.jp>

STUDIO FAX No.0466-29-2121

## 一級技能士の店

各種看板・設計・施工

# (有) 作画社

藤沢市片瀬1-2-8 (〒251-0032)

TEL 0466(23)6124 FAX 0466(24)1751

株式会社 藤沢市興業公社  
8:30~17:00(月~金) 土・日・祝日定休 藤沢市藤沼神町1-1-7 <http://www.kousya.co.jp> ☎0466(22)9141